

参議院でも改憲発議（浦井会長）

7月10日、投開票の第36回参議院選挙で、自民党は改選議席125議席の過半数（63議席）を単独で確保しました。その結果、自民党と公明党の連立政権与党は非改選の70議席を含めて定数の過半数（125議席）を超えました。さらに、与党を加え、国会での改憲論議に積極的な日本維新の会、国民民主党の4党で発議に必要な3分の2（166議席）を超えました。衆議院では改憲勢力が改憲発議に必要な「3分の2」議席を確保しているので、国会での改憲発議が可能となりました。

立憲民主党は野党第一党を維持したものの、勝敗を左右する全国32の1人区で野党は4勝28敗と惨敗しました。

前回と前々回の参議院選挙では1人区のすべてで野党候補を一本化して一定の効果を挙げていただけに、今回は一本化できたのは11選挙区に留まったこと、また全国比例区の得票数が維新の会を下回ったこと

が原因です。

2022年度の防衛予算は10年連続で増大し、過去最大の5兆4005億円を計上しました。米国は同盟国にGDP（国民総生産）2%の防衛費を要求しており、自民党は昨年の衆議院選挙の政策で、GDP2%を目指すことを明記しています。

2020年の日本の防衛費は世界9位でしたが、仮に防衛費をNATO（北太平洋条約機構）なみのGDP2%（約1.1兆円）に増額となれば、日本は米国、中国に次ぐ世界第3位の防衛費（軍事大国）となります。

これは歴代内閣が確認してきた「日本は平和憲法に基づき専守防衛、そして必要最小限度の防衛力を維持する」という憲法9条の下で執ってきた政策と明らかに異なります。自公政権は国会で改憲発議ができる体制をつくり、憲法「改正」をして防衛費の大幅増額を実現しようとしているのです。「憲法を守り活かす」運動にとって重大な正念場を迎えています。

2022年度 県退教協代表者会開催・会員名簿の作成スタート

～2022年度参議院選挙方針、当面の活動、2022年度予算等が承認・決定されました～

参議院選挙方針について

6月14日、教育会館第1会議室で2022年度の県退教協代表者会が開催されました。各支部の代表者1名と傍聴者と役員で22名が参加し、特に参議院選挙をめぐる方針については、政党要件に確保のための「社民党」への支援と県教組・日教組・日退教推薦の「古賀ちかげ」候補に対する対応をめぐり、活発な議論がありました。

結果として、比例区については各支部の決定を尊重すること、「古賀ちかげ」候補が関連する組織の推薦を受けていることを会員に伝えるという結論となり、選挙への取り組みが決定されました。

2022年度会員数確定

組織人員の確認があり2022年度の組織人員は440名となり、今年度の新規加入者は6名と報告されました。

一人250円の助成金決定

予算では2022年度の一人あたり、1000円の会費納入と支部への会員一人あたり250円の活動助成金が決定されました。財源は2011年の東日本大震災・原発災害に対する全国からのカンパに

なります。

県退教協会員名簿の作成に着手

今年度の新しい事務局の取り組みとして会員名簿の作成に当たっています。今後の県退教協の活動を維持し、充実させるために名簿を活用していきます。

2022年度第二回事務局員会開催

2022年7月27日、第2回事務局員会が開催され、当面の活動が確認されました。

- 会報No.2の編集と発行
- 各支部名簿のデータ化
- 会報の定期化と編集体制整備

会報 No.2
P1 会長から
P2 代表者会概要と事務局員会開催
P3 再任用雑感
P4 「東日本大震災・原子力災害伝承館」現地調査報告

退職後の生活基礎知識シリーズ No.1

- 再任用と社会保険加入のメリット等
- 相続財産の計算の基礎
- 弘済会の事業一覧（広告）※掲載料対象

雑感

—再任用としての勤務から—

酒井 克幸 (伊達中学校)

再任用2年目、副担任と
英語教科担任として週20
時間を担当している。朝7



時過ぎに出勤、7時半頃から学年フロアーをう
ろろして生徒らと挨拶を交わす。昼食時には、
配膳室担当で準備と片付けを手伝う。ほぼ毎日
の清掃活動に放課後の部活動と比較的穏やかに学校の生活リズムが保たれている。

副担には不慣れで今も戸惑うことが多く、多
分、気の利かない副担だと思われるに違
ない。部活動では、生徒たちと一緒に汗を流し
健康的だと思いながら続けてきたが、ついにつ
けがまわってきた。四十肩や五十肩は一通り巡
ったのだが、膝にくる経験は初めて。つい健康
サプリメントの広告を真剣に眺めている。

それにしても、学級担任はなぜこうも忙しい
のか。日々の提出物点検、特に生活ノートへの
コメント、ある先生は毎日2、3行の朱書きを
入れている。道徳の授業を毎週まめに実施する。
道徳や学活の時間に学級レクをやる先生は一
人もいない。学年末に道徳の所見を個人に応じ

て細かに記載し「評価」しなければならないの
だ。通信票には行動の所見や総合の所見もある。
三者面談をやれば相談記録を書き、生徒指導上
の問題が起これば、事細かくその経過と指導の
記録を生徒指導委員会に提出しなければならない。
不登校生徒や何時に登校するか分からない
生徒たちへの気配りもある。副担には、これ
らがない。定年までよく学級担任を続けられた
ものだと思う。再任用になってからは、その時
間を教材研究と親の介護に当てている。

昨年の改訂で急激に情報量が増え難易度も
高まった教科書に、生徒だけでなく英語教師も
苦しめられている。おまけに、デジタル教科書
ときた。PCやタブレットは必須の道具となり、
周囲に教授を乞わねば立ちゆかぬ有様。自然と
教材研究に費やす時間が増え、PC画面に張り
付いてばかり、最近では、肩に腰にフェイス
5.0が欠かせない。文科省の無責任な改訂に、
小中学校の英語教育は翻弄されている。しかし、
ぶれない視点をもって指導していくのも窓際、
いや熟練者の役割ではないか、と勝手に思い込
み、教壇に立ち続けようとしている。もう少し
だけ。